

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101636		
法人名	医療法人 岡田整形外科		
事業所名	グループホーム 一喜一喜		
所在地	宮崎市大字浮田3318番地		
自己評価作成日	平成 22 年 8 月 27 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570101636&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局		
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101		
訪問調査日	平成 22 年 9 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節感を大切にし、毎月行事を計画している。入居者のニーズに応える為、毎週座談会を開催し「行きたい所」や「食べたいもの」など希望を聴く機会を設け、様々な企画を立案している。その他、看護師を配置することで医療との連携を図り、介護・医療双方が学び合う環境を整え入居者の体調管理に努めている。法人全体の取り組みとして「なぜメモ」を活用し、業務上の細かな気付きや顧客のニーズなど、様々な情報を収集・共有している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>この夏は猛暑続きのため職員は青竹を取りに行き、手作りのソーメン流しを作り、室内で利用者と一緒に涼を楽しめるよう工夫している。利用者家族とざっくばらんに意見交換が出来るように、近隣の居酒屋で懇親会を行い多くの参加者があり貴重な意見を貰っている。また、日々の支援の中で「なぜ？メモ(気付きメモ)」を活用してミーティングを行いその結果を運営者に報告する組織づくりがなされており、様々なアイデアを活かしたサービスの質の改善に繋がっている。さらに、利用者の重度化やターミナルケアに向けて、医療連携を取り体制を整えて積極的に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域との連携も理念に掲げ、家族交流会や運営推進会議等行い日々のケアに活かされるように努めている。	地域の中で利用者が、『その人らしく穏やかに笑顔のある生活が出来るように』と理念に掲げて、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭や行事に参加したり、様々なボランティアの方に来て頂く事で地域とのつながりを大切にしている。	敬老会や祭りに利用者と職員は一緒に参加したり、食料品の調達など近くのスーパーを利用している。また、地区の美容室のボランティアの受け入れや、婦人会の要請で認知症についての出前講座を行なう等、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「キャラバンメイト」の資格を有するスタッフが認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方々への認知症の理解を深めるよう活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容・取り組みについては毎回報告をしている。協議された内容については全スタッフに周知し、サービスの向上に繋げている。	運営会議は2か月に1回定期的に地区の有識者、家族代表、事業所運営者、職員で開催している。討議された内容、課題について記録に残し、職員全員で共有しサービスの質向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや社会福祉協議会の職員を運営推進会議の構成員とし、会議の場で様々な意見交換をすることで協力関係を築いている。	管理者は事業所の相談等について市の担当職員に意見を求め電話でのやり取りをしたり、キャラバンメイトの有資格者が、担当課の依頼で地域住民に対して認知症サポーター養成講座を担うなど市町村との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部勉強会を年に1回以上開催し、様々な事例をもとに身体拘束の防止に努めている。	管理者、職員は身体拘束の弊害を充分理解しており、玄関の施錠や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回以上の内部勉強会を開催し、高齢者虐待防止について十分理解しケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については理解不足である。必要性に応じて活用できるよう、勉強会を開催するなどして知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に対し、随時十分な説明を行い、理解を頂いた上でその契約・解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに意見を聞くようにしている。必要とされる内容については会議の場で協議し反映させている。	職員は家族からの意見や要望について事業所独自の「なぜ？メモ(気付きメモ)」に残して些細なことでも話し合いを持ち運営に反映させている。また、年1回は家族と居酒屋で懇親会を行い沢山の参加を得て貴重な意見も戴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われる会議に出席し、意見を聞いたり個別に面談の機会を設け、要望や提案を聞くようにしている。	職員の意見は管理者が面接方式で聞きとり、管理者の意見は運営者、理事長に報告し、さらに部門会議の中で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的、状況に応じて面談を行い、本人の意向を聞いたり向上心を持って働けるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整をし、研修に参加しやすい環境整備に努めている。スタッフの育成については教育・訓練マップを中心に目標達成に向け、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加したり、他の事業所職員との意見交換の場として役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、サービス提供前に本人との面談を行っている。本人のニーズの把握と要望に柔軟に応えられるようにつとめている。状況によっては、ショートステイの受入れも行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15、同様に事前の情報収集と家族との面談を行い、家族のニーズの把握と、要望に柔軟に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け他の支援が必要であると判断した場合は、支援内容に応じた他の事業所、または外部との連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を持って共に生活することを理念にもあげている。日常の中で「先人の知恵」を教わる事も多い。その他、共に行事食を作ったり、日々の買い物等、日常生活で入居者が活躍できる場の提供を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や夏祭り、面会などを通して、本人の近況などを伝え、共に本人を支えていく関係作りにつとめている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や、近所の方に面会に来て頂いたり、昔の写真をかざったり、馴染みの家具や食器などを使っていたり、これまでの暮らしを大切にしている。	利用者がこれまで大切にしてきた近くの友人などの来訪があり、昔からの関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や、家事などの作業の場面では利用者の性格や個々の相性などを見極め、互いに関わりが上手くいくよう、時には間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を出したり、定期的に行っている行事や昼食会への招待をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃より、本人の要望や意見等について傾聴し、個別記録やなぜメモを活用して意向の把握に努めている。困難な場合は、家族の意見や要望・生活歴を参考にニーズの発見につとめている。	利用者の表情やサインを見逃さず、家族の意見や協力を求めながら利用者の暮らし方の希望に沿えるように利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、家族からの情報も含め、多方面の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身の状態について、個別記録や申し送りノートを活用、勤務交代時の引継ぎを行うことで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成の過程において事前に本人や家族から希望要望の聞き取りを行い、それを基にスタッフの意見を交えながら、様々な角度から見たプラン作りをおこなっている。	家族の意見を聞きながら利用者本位のケアプランを職員の意見を交えながら作成している。毎日、ケアプランに沿った支援がなされたかケアチェック表を用いてモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人内で使用している、“なぜメモ”を活用し 利用者のケアに関する気づきを会議や朝礼などで周知し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望や必要性に応じて、ケアの仕方やスタッフの勤務形態を調整する等柔軟に対応している。又、他の事業所等(医療機関等)とも連携を取り、その時に必要なサービスの提供に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物に入居者と出かけたり、岡田HPリハ室で行われるトレーニング教室に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	岡田HPの協力を得ながら、本人・家族の意向を随時確認し、適切な医療を受けられるようにしている。その時に必要な紹介状や情報提供書を使用してかかりつけ医との連携に努めている。	本人、家族が希望する場合は従来のかかりつけ医との関係を大切にサマリー提供を行なうなど適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、必要に応じ受診や往診、訪問看護の依頼を行い、経過報告を行っている。また職場内の看護師に助言を求め、適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、情報提供書にて情報を共有し必要に応じては医療機関と直接相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所における看取りの指針・方針については岡田HP院長と管理者と家族を交え入居時に説明・話し合いを行い同意を得ている。また本人の状態や家族の要望に応じ上記の関係者でその都度方針について話し合い、意思確認も行っている。	入居時に看取りについて家族の意向を十分に聞き、家族の要望がある場合、訪問診療、訪問看護、ホーム内の看護師による対応や、さらに夜間の状態の悪化時は母体病院の医師が駆けつけ、夜勤者以外の職員が応援に駆けつける体制を整えて終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応の研修会に参加し、内部研修の場で他スタッフに周知し、実践できるようにしている。又緊急時マニュアルを備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、災害を想定した避難訓練を実施し、全スタッフが対応出来る様に訓練している。訓練時には、地域消防団にも参加頂き、評価と指導をいただいている。	年2回の防災避難訓練(夜間想定訓練も含む)を地域消防団の協力の下に実施している。実施内容は記録に残して反省点など職員会議で討議するなど積極的な取り組みをしている。	防災避難訓練に近隣の住民に参加を呼びかけて災害時の協力をお願いしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や人間性を把握し、尊厳を持った対応を心がけている。また自己のケアの振り返りをミーティング時に行っている。	個人を尊重しプライバシーを損ねない対応方法について勉強会を実施している。声のトーンを落としたやさしい言葉かけや態度で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支持にならない様言葉かけには注意を払い問いかける様にしたり、希望の表出を中々されない方に対しては、いくつか選択肢を差し上げる等の働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本意の生活が送れる様、できるだけ希望に添って一日の計画を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみチェックやカットの日を定期的に決めている。行事の際などは化粧をし、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる切り込みや盛付け、味付けのアドバイスをもらい、一緒に調理を行っている。毎月食事会を実施し利用者も調理・盛付け等行いながら季節を感じていただける食事を提供している。	利用者はテーブル拭きや食器並べなど、出来ることを手伝いながら和やかな雰囲気の中で食事作りをしている。季節の食材を取り入れ、食欲をそそる盛り付けで、利用者と職員は同じテーブルで話を交わしながら楽しそうに食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立に添って調理を行い一人一人の状態に応じた食事や水分量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後おこなっている。また、状態に応じて訪問歯科によるケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態を考慮し一人一人にあった排泄への援助に心がけている。個々の排泄の習慣を把握して援助に取り組んでいる。	利用者のサインを見逃さないようにできるだけトイレでの排泄が出来るように支援している。またプライバシーに配慮して状態に応じた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取を促しながら適度の運動を行い便秘改善に適した食べ物を提供する等便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の状態や希望に添った入浴の支援を行っている。	入浴を楽しめるようにプライバシーに配慮しながら支援している。毎日でも入浴可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調などに合わせて常に安心して気持ち良い休息ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の情報一覧を作成し、服薬の支援に努めている。また服薬における状態の変化について日々観察を行い医療機関への報告・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の情報から本人の趣味や能力を活かせるような家事やレクリエーション、散歩等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候等を見ながら散歩を行っており近くの公園でレクリエーション等を行っている。定期的に外出行事も取り入れ家族の方にも参加して頂いている。	日常的にはすぐ近くのスーパーや公園に出かけている。利用者の行きたい所など希望を聞いて、遠くへドライブの時は家族の協力を貰いながら出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かっているが本人が希望される時は家族の承諾の下本人にお金を所持して頂くようにしている。外出等の際希望される物を預かり金の中から本人が支払ったり出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方から手紙や電話などがあった場合や本人希望などがある時は出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには適度に光が入る様になっておりカーテン等で調整している。入居者の状況に応じたパーテーションを行い、季節の花々を飾り入居者のくつろげる空間作りを行ったり懐かしい歌などを流す工夫をしている。	リビングは和風造りで適度の採光があり、落ち着いた雰囲気の中でくつろげる様にソファやテレビが置かれている。季節の花や観葉植物や、ドライブに行った時のスナップ写真など要所にさりげなく飾られて利用者が居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し利用者同士で会話を楽しんだり又は1人でくつろげる空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や好みの物を使用し馴染みの空間にできるよう工夫している。	利用者の使い慣れた家具や調度品、家族の写真など馴染みの物が持ち込まれ本人が居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは本人の「できること」「わかること」を理解した上で家事作業や整容など見守り・声かけし自立支援を行っている。また利用者の状態によりトイレ・浴室など場所の見当がつく様配慮している		